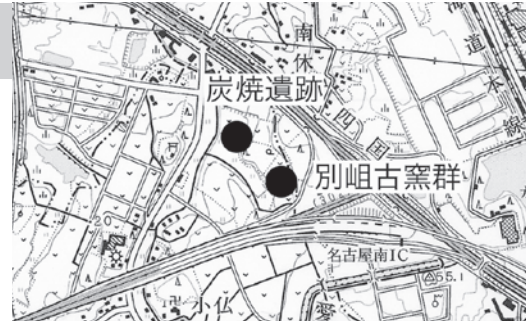


べっ そ こ よう すみやき  
別嵜古窯群・炭焼遺跡

所在地 大府市共和町地内  
(北緯35度3分2秒 東経136度56分27秒)  
調査理由 内陸用地造成事業大府木の山地区  
調査期間 平成21年5月  
調査面積 100㎡  
担当者 宮腰健司・鵜飼雅弘



調査地点(1/2.5万「鳴海」)

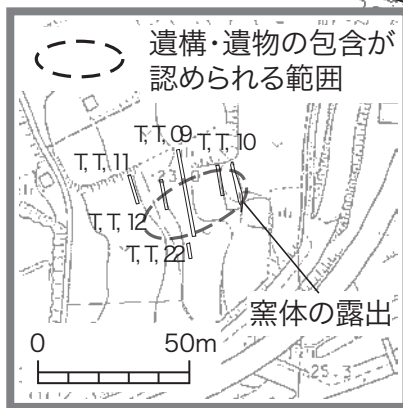
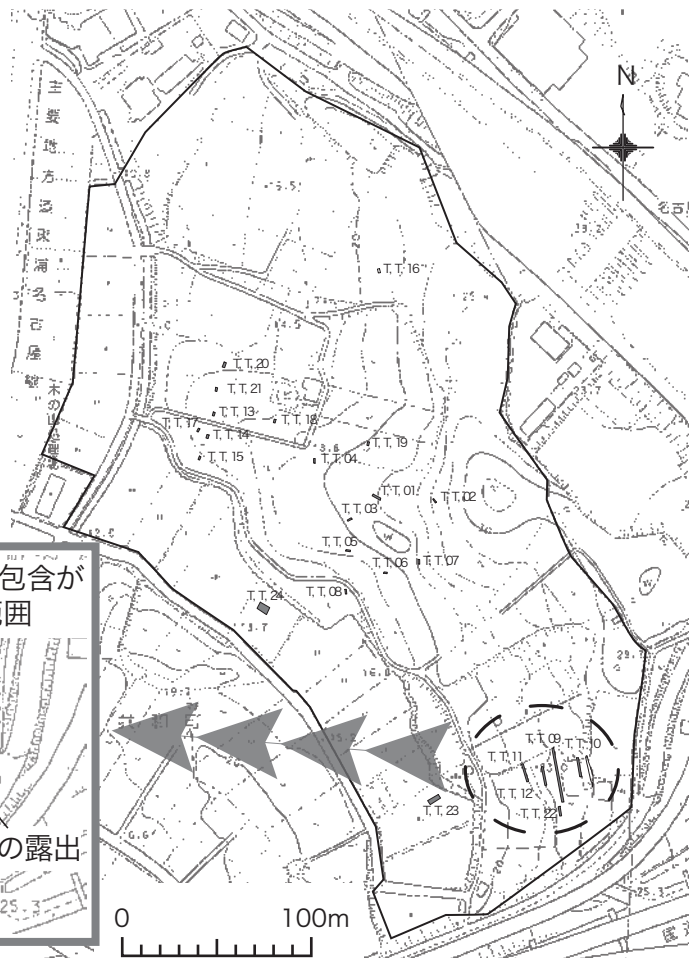
調査の経過 調査は、愛知県企業庁による内陸造成事業大府木の山地区に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受け、平成21年5月に実施された。調査面積は100㎡である。

立地と環境 遺跡は大府市の北東部、大高川東岸標高20mの丘陵に立地し、名古屋市に隣接する。遺跡の西250mには子安神社遺跡、南西500mには円通寺古墓が所在する。

調査の概要 別嵜古窯群の現況は南西方向に区画を持つ畑であり、窯体の位置と灰層の範囲を確認するため、南北方向に5本のトレンチ(T.T.09～T.T.12、T.T.22)を設定し、谷部分に包含層の有無を確認するためT.T.23を設定した。

炭焼遺跡では木の山処理場北東の畑に、遺物の散布が報告されている。このため竹林(T.T.01～T.T.08)および旧耕作地(T.T.13～T.T.21)にトレンチを設定した。

まとめ 別嵜古窯群では、窯体は少なくとも2基が遺存することを確認した。またT.T.09・T.T.12では灰層と見られる遺物包含層を確認し、山茶碗や小碗、焼台などが出土した。一方炭焼遺跡では遺構及び遺物包含層を確認することができなかった。(鵜飼雅弘)



試掘トレンチ配置図(1:400、拡大部は1:250)